

## 〈地理歴史〉

# 地理的な見方や考え方を育成する授業の工夫 ——身近な地域素材を活用した学習を通して——

沖縄県立那覇高等学校教諭 仲 田 邦 彦

## I テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領地理Bの指導上の配慮事項として、「地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること」、「歴史的背景を踏まえて地域性を追究するようにすること」、「地理的考察の方法に慣れ親しませるよう工夫すること」などが示されている。また、本県の「平成20年度学校教育における指導の努力点」においては、「地域の自然・歴史・文化の重視」の項目で、「地域の自然や歴史、文化遺産等の地域素材を積極的に教材化する」ことが示され、教育活動を通してその達成に努めることとされている。

これまでの地理の学習では「世界」・「日本」が中心に実施されてきたので、例えば、生徒に「リアス式海岸」を問えば、「三陸海岸や志摩半島沿岸」、「スペインのリアスハバス海岸やエーゲ海」を答えとして思い浮かべることが予想される。加えて身近な地域として「慶良間諸島や西表島」を取り上げ、「琉球列島の成り立ち」まで理解させることができれば、さらに生徒の関心や問題意識も高まるだろう。また合わせて、他の地域と比較することで、地域の特色を理解することができる。このように身近な地域素材を活用した学習は、「地理的な見方や考え方」を育成するためにも効果的であると考えられる。

実際の授業において「地理的な見方や考え方」を育成するためには、読図、地理情報の収集や作図を通して地理的な課題を探究することにより、新たな知識を獲得していく過程が不可欠である。そのためには地図の見方を事前に習得させ、作業的学習を取り入れるなどし、地理的事象がなぜこの地域に見られるかを追究できる工夫が必要となる。

歴史分野では、琉球・沖縄史に関連した項目が多く扱われるようになった。また、『琉球・沖縄史（新城俊昭）』の発刊により、関心やその学習の重要性が認識され、以前より取り組みも進んできた。一方、地理分野では、『沖縄県の地理（沖縄県の地理編集委員会）』が1978年に発刊、改訂版発刊の後に廃刊になっており、歴史分野に比較して地理分野はやや遅れ、身近な地域素材の活用が望まれる。

そこで、本研究では身近な地域素材を活用した学習を通して、「地理的な見方や考え方」を育成することができるだろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

地理Bの3節「村落と都市」において、身近な地域素材を活用した学習を通して、身近な地域に対する関心を高め、さらに「地理的な見方や考え方」を育成することができるだろう。

## II 研究内容

### 1 地理的な見方や考え方

『高等学校学習指導要領解説』によると次の①～⑤に整理できるとしている。①が地理的な見方の基本、②が地理的な考え方の基本、③～⑤はその地理的な考え方を構成する柱としている。

- ① どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。
- ② そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとの関わりに着目して追究し、とらえること。
- ③ そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域性を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究しとらえること。
- ④ そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、

逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域性をとらえ、考えること。

- ⑤ そのような地理的事象はその地域でいつ頃からみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること。

これらの「地理的な見方や考え方」をわかりやすく表にまとめたのが表1であり、「地理的な見方や考え方」を生徒に意識づけるために授業で活用した。

表1 「地理的な見方や考え方」の構造

|                            |                                  |                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「地理的な見方」<br>↓<br>「地理的な考え方」 | 地理的事象<br>の把握                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象がどこに位置しているかをとらえる</li> <li>・地理的事象の分布の特徴をとらえる（空間的規則性・傾向性）</li> </ul>                                                                        |
|                            | 地理的事象<br>の成立理由<br>他地域との<br>比較と変容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象がなぜその地域にみられるのかを考える</li> <li>・地理的事象を環境や人間生活の営みに着目して考える</li> <li>・地理的事象が他の地域ではどうなのか比較してみる</li> <li>・地理的事象がどのように変化してきたか、今後の変容を考える</li> </ul> |

## 2 身近な地域学習の意義

### (1) 「身近な地域」の学習と空間範囲

『地理を作る50のポイント』によると、「身近な地域」の取り扱いは小・中・高の各段階で扱われており、社会的な事象を取り上げて社会の成り立ちの基礎・基本を学ぶこととしている。中学校地理分野・高校『地理B』では、「身近な地域」学習を通じて生徒が生活する地域に関わる理解と関心を深めさせると同時に地理的な見方や考え方、学び方の基礎を培うこと、日常の生活圏、行動圏の地域性を地誌的にとらえる視点や方法を身につけさせることを目指している。

そこで、学習指導要領に明記された「身近な地域」の空間的範囲とは、直接体験を通じた学習が可能な居住地域をベースとした学習区域から概ね市町村レベルの地域であり、学習対象としての「身近な地域」の範囲は、学習テーマの広がりや子どもの成長に伴う生活圏や行動圏の拡大に応じて柔軟に設定される必要があるとしている。そこで、本研究では「身近な地域」を学校所在地のある那覇市に設定、「村落と都市」の単元において授業実践するものである。

### (2) 「身近な地域」学習の有効性

「身近な地域」学習は、地理的な見方や考え方、読図能力や資料活用能力などの地理的技能を習得する場であり、子どもたちの社会認識形成に重要な役割を果たしている。『社会科地域学習の授業モデル（平田嘉三他）』によると「身近な地域」学習の有効性とは、①科学的な社会認識と市民的資質の基礎を統一的に学ぶことのできる場である。②社会の総合的な見方・考え方、方法的技能の基礎を育成することができ、後の学習にその成果を転移させることができる。③子どもの生活体験・体験と有意味な関連を持ち、学習への興味・関心、知的好奇心や探究心を喚起する、という優れた側面を有していると述べている。これらのことから、「身近な地域」素材を活用した学習を通してその有効性を検証していきたい。

### (3) 子どもたちにとっての「身近な地域」学習の意味

「身近な地域」学習の意味について『地理を作る50のポイント』によると次のように述べられている。子どもたちは日常生活の直接体験を通して、豊かなイメージ的経験を蓄積し、それをもとにして科学的概念を構築していくものである。ところが、地域での様々な原体験（自然体験・社会体験）を経験せずに育った子どもたちの社会認識は弱くなっている。そこで「身近な地域」を学習することで、社会認識を育成することができるとしている。集落立地には「水」の存在が欠かせないが、例えば子どもたちは水道が整備される以前の水汲みの苦労を知らないで、日常生活での「水」の大切さについて実感できない。授業でもそれらがイメージできる工夫が必要がある。

## 3 「身近な地域」として的那覇市

### (1) 古都首里の成立

首里城の創建は明らかでないが、14世紀頃には中山の城として存在していた。15世紀初めには尚巴志が中山を攻略して以降、琉球王国の中心都市となった。尚真は、中央集権化を進めるため各地

方に住む按司を首里城下に住ませ、城を中心に土木工事をおこなって城下町首里を發展させた。これらが首里成立の社会的要因である。自然的要因としては、①高台にありながら琉球石灰岩台地に立地するため水が豊富に得られる。②高台に位置し防御しやすい（首里城は防御よりも政治的・宗教的性格が強い）③琉球石灰岩があることで城壁の石材が得られる。④那覇という外港がある、などが理由として挙げられる。蔡温によると風水的にも優れた場所であるとしている。また、廃藩置県当時はまだ那覇より首里の人口が多く、酒や味噌、醤油、油などの生活関連産業も首里に立地していた。廃藩置県後、那覇に県庁が設置されると中心地としての性格は失われ、都市機能は那覇へと移った。戦後、市政施行により首里市となり、後に那覇市に編入された。

#### (2) 貿易港那覇の成立

那覇の成立要因としては、①国場川と安里川の河口の小島にすぎなかったが、尚金福が長虹堤を造らせ首里と陸続きとし、対外貿易の拠点として整備したことが挙げられる。特に15世紀から16世紀にかけては南蛮貿易により繁栄した。②蔡温が無禄士族の自活を図るために商業を奨励し、士族身分のままで商人として働く事を許可、さらに税も免除したことで人口が増加した。③廃藩置県後、那覇に県庁が設置されるとさらに人口集積が進み、東町・西町を中心に發展していった。これらが那覇成立の社会的要因である。自然的要因としては、港としての自然条件が整っていたことが挙げられる。那覇は飲料水に適した井戸が少なく、水道が敷設される1933年まで居住者は主に天水を利用していた。本土の寄留商人たちは、落平樋川から伝馬船で運んだ水を購入して利用していたという。また城岳付近にある王樋川、泊の崎樋川からも取水していたので、不便ではあったが需要を補っていた。

#### (3) 戦後の那覇市の成立

那覇市は戦争で壊滅し、戦後は皆無からの出発となった。当初、那覇市は米軍物資の集積所としてすべて立ち入り制限地区であった。郊外の壺屋地区に陶器や瓦産業を復興させる目的で開放させ、住民が復帰したのが始まりである。1947年に、開南バス停から丸国マーケット付近に闇市が発生、翌年に自由経済が認められると那覇公設市場として整備され、近くに神里原商店街も形成された。1950年には国際通りが整備され、やがて中心商店街として發展していった。那覇市は、軍用地が開放されるにしたがって、自然発生的に都市化が進んでいった。「みなと村」は港湾荷役作業従事者の居住地として設置された行政区で、奥武山から山下町を中心に約7千人もの人々が生活していたが、1950年に那覇市に編入された。さらに1954年に首里市と小禄村、1957年に真和志市を編入して現在の那覇市域になり、都市計画も進められていった。1987年には米軍の牧港住宅地区が開放され、那覇新都心として開発されている。日本銀行沖縄支店、合同庁舎、博物館・美術館などの国・県・市の公共機関が移転し、大型商業施設もつくられるなど都市機能化が進んでいる。

### 4 「地理的な見方や考え方」を育成する授業の工夫

#### (1) 「地理的な見方や考え方」の意識づけ

普段の授業でも、「地理的な見方や考え方」を学ぶ手順はおこなっているが、生徒に意識させながら授業を進めてはいなかった。そこで、あらかじめ「地理的な見方や考え方」の手順が見えるようにパネルを準備して提示し、「地理的な見方や考え方」について生徒に理解させる。その上で、「地理的な見方」から「地理的な考え方」の手順を追って授業を展開する。学習活動の中で生徒が「なるほど」と発見する過程に「地理のおもしろさ」があることを伝えたい。また、そのことで関心や解決していこうという意欲、態度も高めていきたい。

#### (2) 地域素材と学習内容

「地理的な見方や考え方」を育成するには、「他地域との比較を通して差異性や類似性を理解すること」、「地域の変容と今後の変容を考えること」が有効であるといわれている。そこでまず、「世界」・「日本」における集落の立地・形態・機能について学び、次に地形図の基本的事項や那覇市の地形を学ぶ。最後に那覇市と他地域の比較するという構成で授業を展開する。扇端の集落立地と琉球石灰岩地帯の集落立地、本土の城下町と首里の城下町、富山県砺波平野の散村と沖縄の屋取集落が比較できる教材を準備する。また地域の変容については、戦前の地形図と現在の地形図との比較、都市機能の移転についての教材を準備する。集落立地の社会的要因については、首里城下の按司の住居地図、那覇の古地図などを準備する。地域素材をとおして課題を提示・支援し、差異性と類似性、地理的事象とその要因をみきわめる「思考力・判断力」を図りたい。地域素材を活用することで「関心・意欲・態度」も高めていきたい。

### (3) 地図教材の活用

「地理的な見方や考え方」を育成するのに、地域素材をわかりやすく提示し、課題がみえて結論を導き出すことができるようなワークシートをつくる必要がある。あらかじめ地図と課題を準備し、生徒に考えさせることによって課題解決を図っていく。それには、学ばせたい価値を教材から発見してどのように教えていくかを考えなければならない。いかに「みえないもの（学習内容）」「みえるもの（教材）」にするかが問われる。そこで集落と琉球石灰岩の分布を組み合わせた地図や、都市機能の分布図を独自に開発作成し、生徒の作業学習ができる内容も取り入れ、ワークシートとして提供し活用したい。

### (4) 「地理的な見方や考え方」の応用

他の地域との比較として、宜野湾市と石垣市を事例に生徒に考えさせ「地理的な見方や考え方」が応用できるような問題を提示したい。宜野湾市の事例では、川が途中でなぜ消えたのか、琉球石灰岩の中央部に集落が立地するのはなぜか、どうして普天間基地の場所として選ばれたのかなどを考えさせたい。石垣市の事例では、なぜ四箇（石垣市新川・石垣・大川・登野城4か字の総称）とよばれる現在の市街地に人口が集中しているのかなどを考えさせたい。

## Ⅲ 指導の実際

### 1 単元名 「村落と都市」

### 2 単元目標

- ・村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能を大観し、多様性や地域性から、その特徴を考察する。
- ・沖縄の集落立地の特徴、他地域との相違点や共通点を身近な地域素材を通して理解できる。

### 3 単元の評価規準

- ・本研究における評価は、下記の表2のとおり四つの観点に基づいておこない、評価方法としてワークシートの課題や行動観察、発言、発表、生徒の感想などから総合的に評価する。

表2 評価規準

| A 関心・意欲・態度                                                                         | B 思考・判断                                                              | C 資料活用の技能・表現                                                                     | D 知識・理解                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 身近な地域に対する関心と課題意識を高め、それらを系統地理的に追究する学習に意欲的に取り組み、都市・村落の多様性や地域性をとらえる視点や方法を身に付けようとしている。 | 身近な地域の地理的事象から課題を設定し、それらを系統地理的に追究するとともに、都市・村落を系統地理的にとらえる視点や方法を考察している。 | 身近な地域に関する資料や情報を適切に選択し、それらを系統地理的に追究する技能を身に付けるとともにそうした追究、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりしている。 | 身近な地域の多様性や地域性を大観するとともに、都市や村落を系統地理的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。 |

### 4 単元の指導計画(全5時間)

| 時       | 学 習 内 容                                        | 学 習 活 動                            | 指導上の留意点                                            | 評価の関連 | 評価方法             |
|---------|------------------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------------------|-------|------------------|
| 1       | 集落の成り立ち<br>○村落の特徴と生活様式                         | 集落の形態・集落の立地について理解する。               | 集落には、歴史や自然条件により様々な形態があることを理解させる。                   | A     | ワークシート<br>・発言・観察 |
| 2       | 地形図の学習<br>○地形図の基本事項を学ぶ                         | 作業を通して、地形図の基本的事項や那覇市の地形について理解する。   | 学習項目が多いので簡潔にまとめ、生徒が理解しやすいようにする。                    | A     | ワークシート<br>・発言・観察 |
| 3       | 那覇市の新旧地図の比較<br>○地形図の読図と那覇市の地形を大観させる。           | 那覇市の読図を通じた地域変容や地形を地図ソフトを利用して理解する。  | 気づいた点を自由に挙げさせる。<br>カシミール地図ソフトや古い写真や絵なども活用しイメージさせる。 | A C   | ワークシート<br>・発言・観察 |
| 4<br>本時 | 那覇市の集落の立地<br>○自然的要因と社会的要因                      | 那覇市の集落立地の要因を理解する。                  | ワークシートの作業を通して集落立地の要因を考えさせる。学ばせたいことに焦点をあてる。         | B C   | ワークシート<br>・発言・観察 |
| 5       | 都市機能と地理的な見方の応用<br>○那覇市の拡大と機能<br>○地理的な見方や考え方の応用 | 那覇市の拡大と都市機能について理解する。他の地域で集落立地を考える。 | 様々な要因で機能が分化し、変容していくことを理解させる。応用問題にかかる時間を配慮する。       | C D   | ワークシート<br>・発言・観察 |

## 5 本時の学習（4／5時間）

(1) 題材名 「那覇市の集落立地」

(2) 本時の目標

- ① 身近な地域素材を活用した教材に関心をもち課題に取り組むことができる。
- ② 城下町首里と港町那覇における集落立地の特徴を「地理的な見方や考え方」に視点を置いて理解できる。
- ③ 那覇市の集落立地は、水の得やすい琉球石灰岩地域に多く立地するという自然的要因、また王府の政策といった社会的要因と関わっていることを理解できる。

(3) 授業仮説

身近な地域素材を活用した学習を通して、身近な地域に対する関心を高め、さらに「地理的な見方や考え方」を育成することができるだろう。

(4) 教具・教材

ワークシート・地図・写真・サンゴのかけら・沖縄の土壌

(5) 本時の展開

| 過程           | 生徒の学習活動                                                                                                                                                                                        | 場の設定                                             | 教師の活動・支援                                                                                                                                                                                                                                 | 評価の観点               |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 導入<br>(10分)  | 挨拶と本時の題材名・目標を確認する。                                                                                                                                                                             | 本時の確認                                            | ○本時の題材名と目標を伝える。<br>○「地理的な見方や考え方」をもとに進めることを確認する。                                                                                                                                                                                          |                     |
| 展            | 1 首里と那覇の集落立地（社会的要因）<br>首里古地図から城の周囲にどんな人々が住んでいるか考察する。<br>地方按司を城下に集めた事を理解する。<br>防衛的機能と政治的機能を理解する。<br>明治の頃的那覇の様子を知る。<br>那覇市の古地図から長虹堤ができて発展したことを考察する。<br>無禄士族の商工業・帰農の奨励を理解する。                      | 観る<br><br>発見<br><br>観る                           | ○首里の古地図を提示する。<br>△△按司の△△とは何を指しているか発問。<br>答えの出せない生徒へ支援、発表させる。<br>○本土の城下町と比較させる。<br><br>○明治の頃的那覇の地図を提示する。<br>○那覇の立地については地図で説明する。無禄士族の商工業の奨励で那覇に人口が集まった事を説明する。                                                                              | 思考・判断<br>資料活用の技能    |
|              | 2 散村について<br>沖縄に散村があった事を理解する。<br><br>※古村と基盤目型集落についても理解する。                                                                                                                                       | 観る<br>発見                                         | ○那覇の地質と集落立地図を提示する。<br>○砺波平野の散村を復習し、沖縄の散村について説明する。<br>※城岳にある殿が古波蔵ムラのもので、城岳の南にかつてあった集落が現在地に移動したことについて簡単にふれる。                                                                                                                               |                     |
| 開            | 3 首里と那覇の集落立地（自然的要因）<br>地形防衛上の有利さと建築材がすぐ得られることを理解する。<br>地質と集落分布を分類し、発表する。【ペア学習】<br>琉球石灰岩地帯に集落が多い事に気づく。<br>琉球石灰岩に立地する理由を考察し、発表する。<br>琉球石灰岩地帯への集落の立地は水と関係することがわかる。<br><br>課題をおこなう。<br>水の大切さを理解する。 | 観る<br>発見<br><br>書き出す<br>発見<br>観る<br><br>発見<br>共有 | ○地質と集落分布を提示分類するよう指示する。<br>○琉球石灰岩に立地する理由を発問。<br>○答えの出せない生徒へ支援、発表させる。<br><br>○石は水を透すかを発問。<br>サンゴを見せてヒントとする。<br><br>○首里の湧水の分布図を提示し、島尻層群と琉球石灰岩の関係を説明。<br>○沖縄の土壌サンプルと龍樋の写真を見せる。<br>○王樋川が涸れた理由を考えさせる。<br>○答えの出せない生徒へ支援する。<br>○歌をよんで水汲みの苦労を伝える。 | 資料活用の技能・表現<br>思考・判断 |
| まとめ<br>(10分) | ワークシートの表をまとめる。                                                                                                                                                                                 | 振り返る                                             | ○「地理的な見方や考え方」を通して、集落立地の要因がわかったか、授業を振り返ってまとめる。                                                                                                                                                                                            |                     |

## 6 仮説検証

研究仮説に基づく授業実践で、身近な地域素材を活用した学習を通して、身近な地域に対する関心を高め、地図の見方（地図記号・方位・地形など）、さらに地理的な見方や考え方が育ったかを授業前後のアンケートや授業の感想などを分析、考察する。

### (1) 「身近な地域」に対する関心の変容

「身近な地域」については、「那覇市の地形」、「地域の変容」、「集落立地」、「都市機能」を題材に取り上げ、地図教材を活用して授業をおこなった。

検証後のアンケートでは、「少しある」が21%減少し、「かなりある」が26%、「たいへんある」が13%増加している（図1）。授業の感想では「身近な地域」への親しみや初めて知った事への驚き、「他の地域も見てみたい」という関心の高まりが伺えた（表3）。このことから、「身近な地域」素材を活用した学習を通して「身近な地域」への関心を高めることができた。

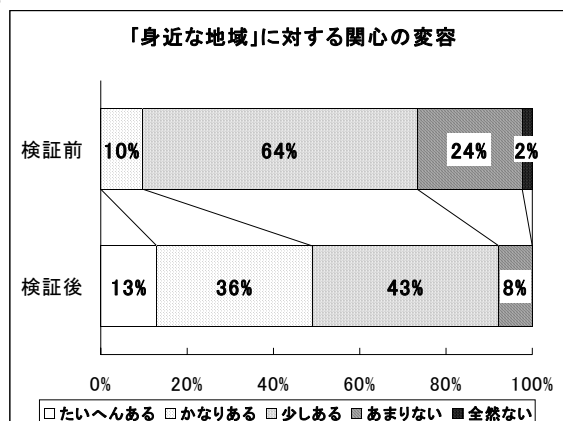


図1 「身近な地域」に対する関心の変容

表3 生徒の感想

- ・身近な地域のことを扱っていて親しみやすかった。勉強ってこうやれば楽しいと思う。
- ・自分の住んでいる小緑が、かつて村だったことにびっくりでした。地元の知識が増えて良かった。
- ・沖縄の昔の地形図をいろいろ見ることができて良かったです。今度は他の地域も見てみたいです。
- ・私たちにとって身近な地域に関する地理の勉強だったので興味を持ちました。

### (2) 地形図の見方の変容

地形図の学習（2時間目）で、地形図の種類（実物の提示）、縮尺・方位・地図記号・三角点の位置確認などの作業をおこなった。生徒の活動状況から地形図をみることに慣れていない事を実感した。地図記号については、その由来をとりあげて理解しやすい工夫をした。

検証後のアンケート結果では、「あまりわからない」が43%減少し、「少しわかる」が33%、「かなりわかる」が18%、「たいへんわかる」が2%増加している（図2）。学習資料として那覇市の地形図を利用したが、生徒は関心を持って積極的に参加していた。

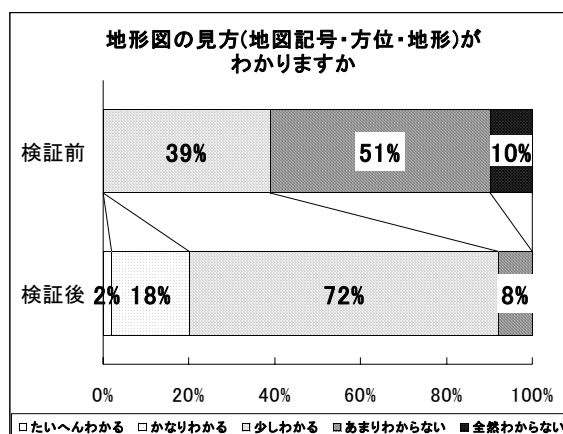


図2 地形図の見方の変容

### (3) 地図に対する親しみの変容

全授業において地図を利用して学習を進めた。検証後のアンケート結果では、「あまりない」が48%減少し、「少しある」が21%、「かなりある」が41%、「たいへんある」が3%増加している（図3）。

地図学習は生徒にとっては親しみも薄く、難しく敬遠されがちだが、地理を学ぶ上で欠かせない基本的な事項である。よって、日頃の授業でも積極的に利用すべきであると感じた。新旧の地形図の比較では、意欲的に読図に取り組む様子が伺えた。生徒から「地図学習は楽しい」という感想を得ることができた（表4）。

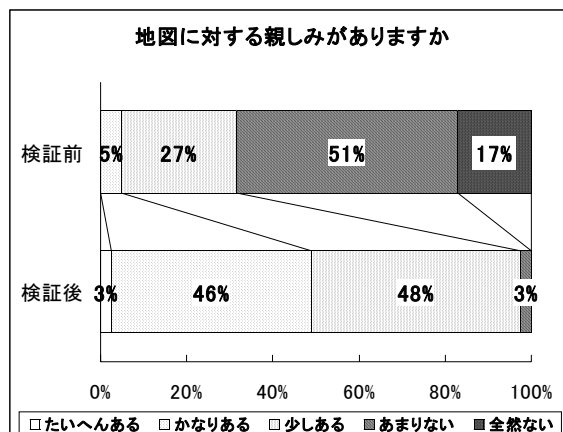


図3 地図に対する親しみの変容

表4 生徒の感想

- ・本当に地理をしているという感じを受けた（地図をつかうところが）。
- ・地図がおもしろいことがわかった。 ・地図には意味があるってのはじめてわかった。

#### (4) 「地理的な見方や考え方」の変容

「地理的な見方や考え方」は、意識していなくても日頃から誰でも実践しているものであるが、それを意識して考えることが地理を学ぶ基本的な事項であり、また「楽しさ」や「魅力」でもある。それがわかると社会における様々な事象の理解や「生きる力」にもつながるものである。

授業の始めに「地理的な見方や考え方」の構造図（表1）を掲示・説明し、意識づけをして後に学習内容に入るように工夫した。授業は「集落の立地条件・城下町の特徴・ドーナツ化現象（2時間目）」、「地名の解釈（3時間目）」、「首里城下町の特徴・沖縄の散村・地質と集落の分布（4時間目）」、「那覇市の都市機能・応用問題（5時間目）」において「地理的な見方や考え方」を扱った。

「地理的な見方や考え方」について説明できるかの質問に対する事後のアンケート結果（図4）では、「全然わからない」が5%、「あまりできない」が28%もあり、その「意味」自体は難しいことではないと考えていた私にとって予想外の結果となった。「地理的な見方や考え方」の理解度（図5）についても同様なことがいえる。自ら考えて判断する力をつけることは、容易なことではなく、授業においても意識的に、また継続的に取り組む必要性を感じた。生徒の感想（表5）からは、意図していたことに答えてくれた事例もあった。

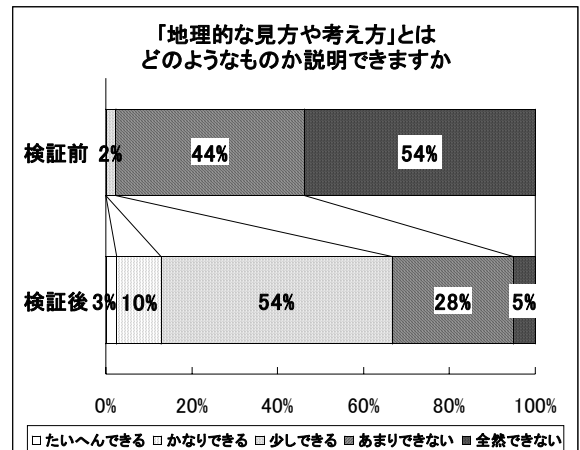


図4 「地理的な見方や考え方」の変容

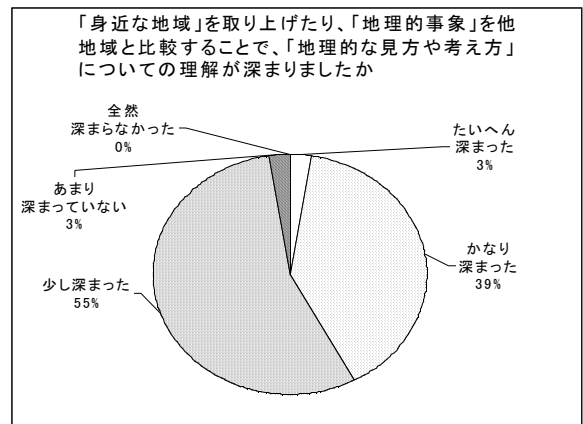


図5 「地理的な見方や考え方」に理解が深まったか

表5 生徒の感想

- ・「なぜそこに～があるのか」という理由を説明してくれてとても興味深かった。これからも理由を探究していきたい。
- ・地図をよく見て、なぜその地帯にはそのようなものが分布しているのか、よく考えてみると、きちんとした理由があることに驚きました。ありがとうございました。
- ・沖縄の地形や見方などがわかってとてもおもしろかった。なぜここにあるのかということがわかってとてもおもしろかった。
- ・今まで、ただ授業を受けるだけだったけど、このように詳しくやると、おもしろさがわかった。

「地理的な見方や考え方は、社会生活に役立つと思いますか」の質問には、「たいへん役立つ」が5%、「かなり役立つ」が49%、「少し役立つ」が44%と肯定的な意見が多い（図6）。生徒の感想からもそのことが伺えた（表6）。「役立つ」という認識をもって生徒が授業を受けてくれると学習の効果にもつながるものと思われる。

日頃からこの手法を意識することで、「地理的事象」だけでなく、「社会的事象」や「歴史的事象」を比較・関連させたり、社会生活の関わりから考察するといった「ものの見方や考え方」の育成につながることを期待したい。

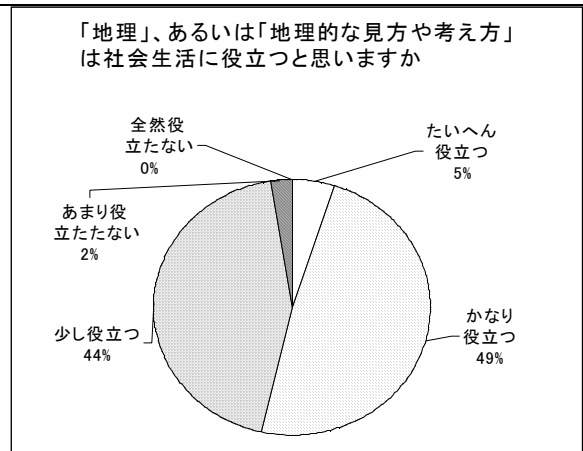


図6 「地理的な見方や考え方」は社会生活に役立つか

表6 生徒の感想

- ・地理的な見方や考え方は、日常生活にも使えて便利だと思った。
- ・地理的な見方や考え方は、普段の生活でも役立つと思った。おもしろかったです。

#### (5) 「地理的な見方や考え方」の応用

最後のまとめとして応用問題を課した(表7)。課題1の正答は、「石灰岩地帯では水が透過されてしまうから」である。9割近くの生徒が正解した(図7)。課題2の正答は、「石灰岩台地中央部でも水が得られる環境にある」からである。やや難しい問題であるとは思ったが5割の生徒が正解した。誤答の例としては、よく問題を読んでいないと思われるものや図をしっかりと見ていないことが原因と思われるものがあった。課題3の正答は、「石灰岩のため地盤がしっかりしている。比較的平らである」からである。6割の生徒が正解した。「アスファルトなどで整備する必要があるから」という解答もあった。誤答はなかった。課題4の正答は、「石灰岩地帯は水はけが良くマラリアの媒体となる蚊の発生が少ないこと、八重山という完結した地域なので人口が集中しやすく、また島々からなるため交通の便利な所に人口が集中する」からである。やや難しい問題と思ったが6割の生徒が正答した。「地理的な見方や考え方」を定着させるためにも実施してよかったと感じた。

表7 応用問題

◎宜野湾市の地質と集落立地の図をみて解答  
課題1：石灰岩地帯で川が消える理由  
課題2：台地中央に集落立地する理由  
課題3：普天間飛行場の立地する理由  
◎石垣市の石灰岩の分布図・マラリアの有病地と無病地地図・航路図の3図をみて解答  
課題4：石垣市四箇に人口が集中する理由

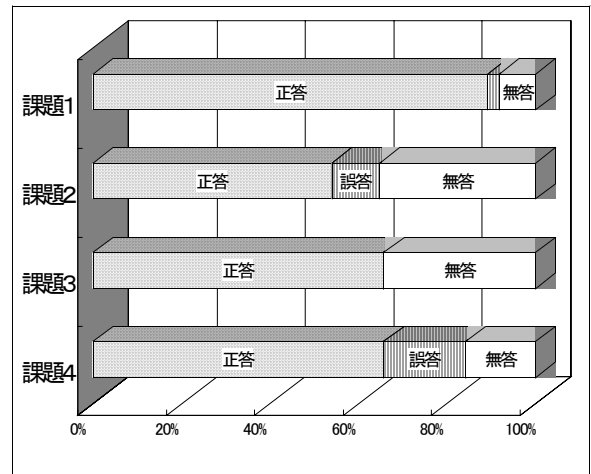


図7 応用問題の解答結果

## IV まとめと今後の課題

本研究では「身近な地域素材を活用した学習を通して、身近な地域に対する関心を高め、さらに地理的な見方や考え方を育成することができるだろう」との仮説を元に研究を進めてきた。以下、研究の成果と課題を述べる。

### 1 成果

- (1) 那覇市という「身近な地域」素材を学習を通して、「身近な地域」の関心を高めること、また、地形図の見方や地図に対する親しみについても育成することができた。
- (2) 沖縄県における集落の立地は、琉球石灰岩の分布と密接な関係があることを理解させることができた。
- (3) 那覇市という「身近な地域」を素材とした地図学習を通して、「地理的な見方や考え方」を育成することができた。また、そのおもしろさや楽しさも伝えることができた。「地理」という教科への関心も高めることができた。

### 2 課題

- (1) 授業内容に「沖縄の歴史に関わる用語」が多くあり、その説明に時間がかかったことで、生徒の発表や読図作業にける時間を十分に確保できなかった。ゆとりを持った授業計画が必要であった。
- (2) 本研究によって「地理的な見方や考え方」の育成についてある程度の成果は上げることができた。しかし、応用問題の結果からも短期間ですぐに育成できるものではなく、教科書のそれぞれの単元においても継続的にこなす必要がある。
- (3) 「身近な地域」素材を活用した学習は、生徒の関心を高めることに有効なので、気候・自然・産業などへも範囲を広げたい。

### 〈主な参考文献〉

片上宗二／森分孝治編集 2007 『社会科重要用語の基礎知識』 明治図書  
星野朗／他四名編 2004 『地理教育をつくる50のポイント』 大月書店  
佐藤照雄／他二名編 1992 『沖縄の社会と文化』 教育出版センター

